

見直しませんか、わが家の防災対策

～ 第九回 水道 ガス ～

愛岐ヶ丘自治会
愛岐ヶ丘防災士会

今回は、愛岐ヶ丘の水道とガスについて見て行きましょう。共に公共性の高いライフラインですが、災害などに備えて、自助として私たちが出来ることは日頃から心がけておきましょう。

水道

■ 愛岐ヶ丘の水道水はどこから？

- ⇒ 飛騨川にある岩屋ダムが水源で、飛騨川の流量が少ない時に貯留水を放流します(干天が続いてダムの貯水量が大きく減ると、節水が必要です。)
- ⇒ 白川取水口(加茂郡白川町)で飛騨川から取水
- ⇒ 山之上浄水場(美濃加茂市)で浄水
- ⇒ 長洞ポンプ場で揚水して
- ⇒ 愛岐ヶ丘配水池(円柱形タンク)に貯水
- ⇒ 各家庭へは、愛岐ヶ丘配水池から配水されています。白川取水口から愛岐ヶ丘配水池まで、直線距離で約 25km の導水管でつながっています。



■ 水道施設は地震に強いのか？

白川取水口から愛岐ヶ丘配水池までの導水管は地震に強い構造となっていますが、団地内配管の補強事業は今後実施される予定です(R4年3月現在)。

■ 隣の市や町と水は繋がっているのか？

「中津川市などの東濃地域5市」と「可児市などの可茂地域2市4町」は導水管で繋がっていて、非常時には互いに水道水を融通できます。

一口メモ

平成30年夏、飛騨川で深刻な濁水が発生して白川取水口からの取水が停止された時、可児市はこの導水管を使って中津川市の浄水場から応援給水を受け、急場をしのぐことが出来ました。

■ 断水時の可児市応急給水体制は？

可児市では断水に備え、加圧給水ポンプ車(2,000ℓ)や大型給水タンクなど(タンク50基(合計37,700ℓ)、ポリ容器など2,377個)の資機材を常備している他、給水訓練を随時行うなど、万全な応急給水体制を敷いています。このような可児市独自の対策は元より、県内及び県域を越えた広域連携応急給水対策も講じられており、私たちにとって大変心強い体制が取られています。

■ 私たちは断水/災害に備えて何をすればいいの？

このような公助ばかりではなく、私たちには自助が求められています。私たちが出来る日頃の備蓄や対策として、

- ▶ 飲料水（3ℓ以上/人/日で、3日分以上）
- ▶ 給水を受けるポリタンク（水栓付きが便利）
- ▶ 運搬台車やキャリアー（20ℓの水は20Kg）
- ▶ 背負い式の非常用飲料水袋（運搬が楽）

などを用意しておきましょう。水洗トイレ用に風呂水は流さないで溜めておくことも一案です。毎日は難しい方でも、台風の接近時には準備しておきたいですね。

なお、清浄なペットボトルなどに、空気が入らないよう口一杯まで水道水を入れて栓をしておけば、常温で3日、冷蔵では10日程度飲用として使用できます(警視庁 HP)。ただし、浄水器を通した水道水は塩素の殺菌効果が弱まるので、保存には向きません。不安な場合は煮沸しましょう。



ガ ス

■ ガスはどこから？

愛岐ヶ丘のガスはご存じのとおりLPガスです。団地内にあるガス特定製造所（ガスボンベの設置小屋）は団地内に5か所あり、ここから各家庭にガスが送られています。

■ 異常時の対応は？

特定製造所にガス漏れ警報器は設置されていませんが、遠隔で24時間監視されています。異常が検知されれば直ちに東邦液化ガス東濃営業所（可児市大森）から緊急走行（サイレン、赤色灯）で駆け付けます。また、5か所の特定製造所はガス管でつながっており、どこかの特定製造所で異常があっても遮断されても、特定製造所間で互いにガスを融通できるので、各家庭のガスが止まる事はありません。



ガス特定製造所

■ 特定製造所などの地震対策は？

地震に備えて、ガスボンベは転倒防止対策が施され、ガス放出防止型のホースも使われています。また、震度6強相当の揺れでガスの供給は自動的に遮断されます。更に、団地内の配管(約10km)の9割は地震に極めて強いポリエチレン製に替えられており、地震に対する安全性は高くなっています。

■ 各家庭での地震やガス漏れ対策は？

各家庭のマイコンメーター（ガスメーター）は、震度5相当以上の地震発生時には自動でガスを遮断します（ガスを使用していない時は遮断されません。）。ガス漏れの臭いがした時は、窓を全開し、火気はもちろん、換気扇など電気機器のスイッチ操作も厳禁です。ガス器具とマイコンメーター付近にある屋外の元栓も閉めましょう。自動で遮断したマイコンメーターの復帰方法はガス会社から各家庭に配布されていますが、よく分からない場合はガス会社へお問い合わせ下さい。



LP ガス安全委員会 HP